

## 琴浦自分ごと化会議提案書手交式 会議結果

|       |  |
|-------|--|
| 会議趣旨  | 琴浦自分ごと化会議にてまとめた提案書を町長に提出し、意見交換を行った。  |
| 会議概要  | <p>1 日時 2/25 (木) 9時00分～10時00分</p> <p>2 場所 琴浦町役場本庁舎委員会室</p> <p>3 参加者 町民委員6名、町長、副町長、企画政策課</p> <p>4 内容 提案書の提出を受け、意見交換を実施<br/>野口委員より代表して提案内容の説明</p>  |
| 委員意見等 | <p>【野口委員より提案内容の説明】</p> <p>私たちは、昨年10月から2月まで、4回にわたって「琴浦自分ごと化会議」の委員として、「持続可能な地域交通のあり方」について話し合ってきました。この提案書は、これまでの議論を4つの提案にまとめたものです。</p> <p>この会議の大きな特徴は、住民基本台帳から無作為に選ばれた町民が議論したことだと思います。</p> <p>これまで、公共交通について考える会議であれば、利用者や交通事業者などの関係団体が集まり、議論を行う場が多かったと思いますが、今回の委員の中には、日頃からご自身で公共交通を利用される方だけでなく、スクールバスを利用されている方や、自家用車を利用しており公共交通は全く利用していない方など様々な方がおられました。</p> <p>初めは、町民それぞれが地域交通について抱えている不安や、行政の取組の中で課題だと感じていることを中心に話し合いましたが、会議が進む中で「交通」「人の移動」を切り口とし、町民の生活をより良くするためにはどうしたらいいのか、私たちにできることはないかと「琴浦町全体」のことを考え、前向きな意見が飛び交う活発な議論になったと考えています。</p> <p>それでは、「琴浦自分ごと化会議」からの提案について説明いたします。8ページをご覧ください。</p> <p>私たちは、現在の交通施策を今後も継続していくことは困難であるとの認識にたち、地域交通の現状と課題から議論の内容を4つの提案としてまとめました。</p> <p>一つ目の提案は、</p> <p>琴浦町民の移動のニーズの把握を行い、日常生活に必要な交通手段の確保が困難な町民を支える。になります。</p> <p>具体的項目として、①町民の移動手段や地域の実情の把握を行う。②民間事業者や</p> |

医療機関と連携し、移動販売・在宅医療の充実等を図る。の2点です。

二つ目の提案は、

「町民の生活を支えるためには、どのような移動手段を確保する必要があるのか」の視点から、今後の公共交通のあり方を再検討する。になります。

この提案部分については、会議でも時間をかけて議論しました。

具体的な項目として、①現在の公共交通をどのように利用し維持させるかを検討する。②公共交通を維持するコストを減らす。③公共交通の担い手（ドライバー）を確保する。④路線バスとスクールバスの効果的な活用を行う。の4点です。

三つ目の提案は、

将来にわたって移動手段を確保できるよう、地域と行政が連携し、町内の各エリアに合った共助交通を検討する。になります。

町民の日々の暮らしに必要な移動を今後も確保していただくためには、公共交通だけでなく共助交通の取組をすすめていくことが重要になります。地域と行政が協働して町民の移動を守っていく仕組みづくりが今後は求められます。

四つ目の提案は、

暮らしを助け合える元気な地域をみんなで作っていく。です。

今後も人口減少や少子高齢化が進んでいく中で、「交通」を問題意識のキッカケとして助け合える地域を自分自身をはじめとして地域、行政の全体で作っていくことが重要です。

自分ごと化会議を終えて、委員の中には、今まで町営バスを気にしていなかったが、通りすぎるたびに人が乗っていないなあと見るようになりました。税金の使い道や町政にもっと関心を持たなければいけないと思いました。といった声が挙がりました。まさに自分のこととして受けとめることができた結果と考えています。

今回の4つの提案や自分ごと化会議の議論の内容を、町が今後策定する「公共交通再編計画」に反映していただければと思います。

私たちも地域交通の動向を注目し、できるところから協力をし、また、自分たちでできることを積み重ねていきたいと思っています。

これからの琴浦町の動きに期待をしています。ありがとうございました。

#### 【提案に対する町長コメント】

お忙しい中、会議に出席いただきありがとうございます。

交通の状況が今どうなっているのか現実を理解していただいた中で、自分が免許返納したときに公共交通がどうあるべきか、何を議論していただきました。

提案4つについては、役場にしっかり検討してもらいたいとの言葉と考えている。

来年4月から公共交通の新たな形を考えているところです。この一年間、一つずつ点検して新しい取組に生かしていきます。

【委員の感想、意見】

- ・ 応募案内が届き、交通について自分のこととして考えた場合に、将来困ることはないかと思って参加した。参加してみると色々な立場の意見があった。
- ・ 話し合うときに関係者だけでなく、立場が違う方の参加があった。多くの意見が出て、町全体のことまで話が広がった。
- ・ 上中村線の運行は、このままではダメ。共助交通を取り入れていく。今年度、実証実験に参加したが、思った以上の利用者があった。来年度、地域で実施していきたい。
- ・ 困ったという意見だけで建設的な意見がなかったように思う。交通事業者が撤退となったときに役場職員の誰もが資格をとって運転できるようにしてはどうか。
- ・ 度々、空車のバスを見かけて、もったいないなあと感じていた。先日、読み聞かせのボランティアのためにスクールバスに絵本を乗せて届けようとしてバスを止めたら、一般用のバスであった。その後、1分もしないうちにスクールバスが来た。効率ではないと感じた。
- ・ 以前100円バスを利用して、中津原まで乗車したことがある。100円で届けてくれるので、よい制度と思っていた。しかし、100円の運賃を稼ぐのに1,300円かかっていることを知った。この会に出て改善が必要と感じた。
- ・ 先日、雪の日にスクールバスが朝早い時間から運転していた。責任感をもって運行していることに感謝している。公共交通の存続を願っている。
- ・ 町営タクシーが可能であれば、町の職員として雇用して、若い方の雇用促進にもつながるのではないか。
- ・ 交通を維持するためには財政的な問題が生じる。町民が少しずつでも負担していく。周囲が困っている人のために頑張ることを根付かせていく。そうでないと持続可能な交通に向かわない。
- ・ 民間事業者ができるところは民間事業者がしっかりとする。できないところは共助が必要になる。これからは地域内で色々な分野で助け合っていく。そのきっかけになる会であった。5年後には自動運転が実現していることを期待している。
- ・ これだけ人口減少がすすむとこれまでの生活は立ちゆかない。シェアハウスなどコミュニティが近くで完結するような仕組みを考えていかなければいけない。
- ・ スクールバスと一般のバスが合体して、一緒に乗っていくようにしたい。将来を考えると子どもの数も減っていく。三朝町では、一般のバスで通学している。

|  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 共助交通ができるとコミュニケーションも取れるので、そんな方法になったらよい。</li><li>・ 町が母体になって運転手を確保する乗合小型バスを運行してはどうか。交通の手段の一つとしてはどうか。徐々に小型化していけばよい。定年退職した人を2種免許を取ってもらうような制度を町が設け、ドライバー確保していく。</li></ul> |
|--|---|